

大森町文化財保存会

代表者 吉岡 寛

所在地 〒694-0305 島根県大田市大森町イ490 大森まちづくりセンター内

設立年月日 1957年

【設立趣旨】

大森町文化財保存会は、大森町が市町村合併により大田市に編入されることで、大森町の文化財の保存が他の文化財の保存に埋没しかねないとの危機感から大森町民により結成されました。大田市大森町に存在する文化財の保存を目的とした本保存会は、今後の大森町のあり方を検討する重要な場となっています。

特に2007年(平成19年)の「石見銀山遺産とその文化的景観」の世界遺産登録からは、その構成資産である大森町の史跡と景観を守ることに加え、世界遺産登録により増加した観光客から大森町民の暮らしを守るため、大森町のあり方を住民が主体的に検討しています。

【沿革】

本保存会は、1957年(昭和32年)に文化財の保存に関心を持つ数人のメンバーを中心として発足しました。当時すでに存在していた大森町の9つの自治会で構成し、全大森町民が参加する「自治会協議会」を基盤とすることで、発足当初から大森町民全員の参加を実現することができました(2010年3月現在約400名)。

保存活動は、主に文化財の調査・研究活動が中心でしたが、1969年(昭和44年)に国から「石見銀山遺跡」として史跡への指定を受けたことに伴い、文化財の保存・整備へシフトしています。

更に1998年(平成10年)頃から、石見銀山遺跡の世界遺産登録を目指す動きが活発化する中、大森町民の意向を反映させるため、月に一回大田市との意見交換の場を持つことで、行政との相互理解を図りました。

2005年(平成17年)からは、市が主催する「石見銀山協働会議」に保存会メンバーを参加させることで、世界遺産石見銀山の構成要素としての大森町の保存につなげる活動を展開しています。また、2007年(平成19年)の「石見銀山遺産とその文化的景

観」として大森町の史跡が世界遺産の指定を受けた以降は、増加する観光客への対策を検討することも目的に含め、引き続き行政との意見交換の場を設けています。



大森町の町並み1

(石見銀山HPより <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/index.php>)

【活動目的】

市町村合併に伴い、大森町の文化財の保存が他の文化財の保存に埋没しかねないとの危機感が住民の間に生まれました。そこで、大森町の文化財を保存することを目的として掲げ、本保存会は設立されました。保存活動の結果、1987年(昭和62年)には大森町の町並みが重要伝統的建造物群保存地区として選定され、2007年(平成19年)には「石見銀山遺跡とその文化的景観」として大森町及びその周辺の石見銀山遺跡が世界遺産として登録されました。現在は世界遺産登録に伴い増加する観光客への対策を含め、大森町の今後のあり方を引き続き検討しています。

【活動内容】

●大森町の町並みの保存のあり方の検討

大森町の史跡と景観の保存のあり方を検討することが、本保存会の主な活動です。具体的には、2007年(平成19年)に市が主催する「石見銀山協働会議」が策定した行動計画を受け、「大森町住民憲章」を作成し、現在は実行に移しています。

石見銀山行動計画は、官民協働事業を中心にしながら世界遺産登録を迎える石見銀山の諸活動に係わる計画を体系的にとりまとめ、石見銀山に係わる活動が持続可能な地域の活性化となることを目的に策定されました。大森町ではこの計画行動を受け、大森町民の暮らしを守りながら、増加する来訪客との共生を目指すことを宣言するため、「大森町住民憲章」を策定しました。憲章実現のために、来訪者対策、治安対策、家屋と土地の利活用調整の3つを設定しています。

●町おこし活動の先進事例調査(研修視察)

本保存会では、保存会メンバーによる町おこし活動の先進事例調査(研修視察)

を年に1回実施しています。これにより、大森町の保存の方向性の検討が活発に行われるようになっただけでなく、保存会メンバーの意識の啓発も図られました。



大森町の町並み2

(石見銀山HPより <http://ginzan.city.ohda.lg.jp/index.php>)

●大森町内の一斉清掃

7月の第一日曜日に、大森町内の一斉清掃を全保存会メンバーを対象に行っています。保存会メンバーが自ら町を知ること、保存会メンバーである大森町民の意識の向上に寄与しているといえます。

これらのような積極的な活動の展開は、行政による大森町の町並み整備の支援を獲得することにつながっています。さらに、大森町の文化財保存を働きかけた結果、大森町の町並みは世界遺産に登録されることとなり、大森町への観光客も着実に増加しました。

【活動上の課題と今後の展望】

今後は、増加する観光客に対応するため、財源を確保する必要があり、石見銀山基金の活用を検討しています。

石見銀山基金とは、民間と行政の協働による石見銀山の保全・活用等の事業の財源とするため、大田市が募集する募金です。3億円を目標額として2008年(平成20年)より5年間、広く県内外の個人・法人・団体より寄付を募っています。大田市は本基金を活用し、住民団体等が実施する保全・活用などの活動への助成や、石見銀山行動計画に基づく協働事業と位置づけられる事業の実施を支援することを予定しており、今後活用できることが期待されます。